ブルンジ月報（２０２６年１０月）
※以下は、ブルンジ主要メディア（ＲＴＮＢ、ＩＷＡＣＵ等）の記事取りまとめ。

１．政治・外交

今月のンダイシミエ大統領の主要な動きは以下のとおり。
●３～４日、エジプトを訪問、ＡＵＤＡ－ＮＥＰＡＤ（アフリカ連合開発庁・アフリカ開発のための新パートナーシップ）設立２５周年首脳会合及び第８回ＡＵ中間調整会合に出席。
●６日、有機肥料の生産・加工に取り組む若者と会合。農業の生産性向上及び土壌保全に向け、有機肥料の生産・利用、小規模家畜の飼育、バイオガスの普及等を奨励。農業科学研究所（ＩＳＡＢＵ）に対し、生産者への技術支援を要請。
●９日、キリリ大統領宮殿において、２０２６～２０３０年国家汚職・経済不正対策戦略の実施開始式を主宰。公的資金の横領、国家歳入の不正な流出及び賄賂等の撲滅に向け、行政機関、市民社会及び国民の協力を呼び掛けるとともに、全国的な啓発キャンペーンの実施を発表。
●１３日、ブジュンブラで開催された第１回「Burundi Heart of Africa Arise Summit２０２６」の開会式に出席。過去の歴史的な傷の克服、国民和解及び社会の結束に向け、宗教指導者が果たす役割の重要性を強調。
●１６日、ブフムザ州カンクゾ県で開催された世界食料デーの式典に出席。食料安全保障の確保に向け、農業及び畜産の振興を通じた年間を通じて安定した食料生産の実現を呼び掛けた。
●２３～２５日、エチオピアで開催された第１２回タナ平和フォーラムにＡＵ議長として出席し、開会演説を実施。スーダン、コンゴ（民）及びサヘル地域の紛争に言及し、早期警戒を早期行動につなげる仕組みの重要性を強調。
●２８～２９日、モスクワで開催された第３回ロシア・アフリカ首脳会議に出席。２９日にはプーチン・ロシア大統領とともに首脳会議の共同議長を務めた。

内政に関し、
●１０日、サフワニャ・フロデブ（Sahwanya-FRODEBU）党は、２０２７年５月３日予定の大統領選挙について、選挙の公正性を担保する条件が整っていないとし、候補者を擁立しない方針を決定。
●１３日、独立の英雄ルイ・ルワガソレ王子暗殺６５周年を迎え、各地で追悼行事を実施。

外交に関し、
●１３日、国連総会において、ブルンジが２０２７～２０２９年の国連人権理事

会理事国に再選。アフリカ地域の４議席をめぐる選挙で１６０票を獲得。
●１９日、ビジマナ外相がザンビアのルサカで開催された大湖地域国際会議（ＣＩＲＧＬ）第２０回地域閣僚委員会に出席。
●２１日、同外相は訪問中のギュレル(Serap Güler)ドイツ国務大臣と会談。両国関係の強化及び経済・開発協力の活性化について協議。ブルンジ側は、ドイツ国際協力公社（ＧＩＺ）等の開発パートナーの復帰及びブルンジをドイツの協力・資金援助の優先対象国に含めることを要請。
●２９日、同外相はモスクワで開催されたアフリカ連合（ＡＵ）・ロシア連邦外相級会合に出席、アジェンダ２０６３の実現に資する具体的な協力事業への期待を表明。

２．経済

●７日、鉱物資源・エネルギー・産業・貿易・観光省が民間企業関係者との意見交換会を開催。貿易手続及びビジネス環境の改善について協議し、政府・民間合同委員会の設置や、国営水道電力公社（ＲＥＧＩＤＥＳＯ）による電力供給スケジュールの明確化等を提案。
●１４日、閣議において、国家デジタル政策案及びサイバーセキュリティ国家戦略案を採択。農業近代化に向けたブルンジ農業変革庁の設立、ブルンガ州及びブフムザ州の地方電化、港湾・海運部門の近代化等に関する案件を審議。
●１５日、政府と米国系エネルギー企業アンザナ・エレクトリック・グループ傘下の Weza Power が、電力配電事業に関する２５年間の官民連携（ＰＰＰ）契約に署名。総額１４億ドルの資金動員を見込み、ブルンガ州及びブフムザ州を中心に約１，４００の丘に配電網を拡張し、約８００万人の電力アクセス改善を目指す。